



今月のテーマ

窓越しの雨音とともに…



『雨の降る日は学校に行かない』

Y913/ア

あいざわ さこ
相沢 沙呼 / 著 集英社

中学校になじめず、保健室登校をしている中2のサエとナツ。サエが突然、「クラスに戻る」と言い出したことで、二人の平和な時間が終わりを迎える「ねえ、卵の殻がついている」をはじめ、クラスになじめない中学生女子の生きづらさや、ほのかに灯る希望を記した短編集。

最後のページを読み終えると、この短編集がひとつの連作になっていることがわかります。

タイトル	作者	出版社	請求記号
小説 天気の子	新海 誠 著	KADOKAWA	YB913/イ
傘をもたない蟻たちは	加藤 シゲアキ 著	KADOKAWA	YB913/カ
晴れた朝それとも雨の夜	泉 啓子 / 作	童心社	Y913/1

「窓越しの雨音とともに…」の特集本は、
五反田図書館ティーンズ特集コーナーで展示中



新刊 紹介

『毒をもって僕らは』

Y913/7

みざき
冬野 岬 / 著 ポプラ社

高校生の木島道歩は尿路結石のため入院していた病院で16歳となる。そんな道歩に声をかけてきた綿野という少女は、不治の病に侵されていた…。彼女は「この世界の、薄汚い、不幸せなことを私に教えてくれないか」とたずねるが…。